



京都大学防災研究所 公開講座（第24回）

“災害のメカニズムを学び、防災対策に役立てよう！”

— 近年多発する豪雨災害 —

ご案内

京都大学防災研究所は、1951年の創設以来、わが国や諸外国を襲う様々な自然災害を軽減することを目的に、「災害学理の追求と防災に関する総合的・実践的な研究の推進」をミッションとした研究と教育を展開しています。また、防災に関する我が国唯一の共同利用・共同研究拠点として、共同研究や研究集会を実施し、大型研究プロジェクト等の遂行に中核的役割を果たしています。

本公開講座は、防災研究所の最新の取り組みを分かりやすくお伝えするとともに、皆様との意見交換の大切な機会として開催し、第24回を迎えました。今回は、より多くの方々に受講して頂けるよう、参加費を無料化した上で、インターネット生中継を実施いたします。防災研究に関心をお持ちの方々のご参加を心よりお待ちしております。

【講座内容】

気象庁アメダスの統計資料によると、最近の30年間で時間雨量50mm、80mm以上の雨が降った回数は明らかな増加傾向を示しています。このため、豪雨による洪水などの水象災害や、崩壊・土石流などの土砂災害のリスクは年々増加していると言えるでしょう。実際、平成23年には台風12号によって、わずか3日の間に日本の年平均降水量に匹敵する約1,700mmもの記録的な雨が降り、紀伊半島に大きな災害をもたらしました。

また、昨年7月には九州北部で集中豪雨による大規模な災害が、そして7、8月にも京都府で洪水や土砂災害が発生したことは記憶に新しいところです。本公開講座では、これらの背景を踏まえ、第一線で活躍する専門家が、豪雨の発生メカニズムやそれに伴う災害の事例、さらに総合的な防災計画に関する最新の研究成果を紹介するとともに、今後の防災・減災のあり方について議論します。

【日時】 平成25年9月19日（木） 10時～17時

【インターネットでの受講】

○ インターネット生中継を行います。詳細は防災研究所HPをご覧ください。

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html

【会場での受講】

○ 場 所： キャンパスプラザ京都（京都市下京区西洞院通塩小路下る）4階 第2講義室

○ 入 場 料： 無料（申し込みは必要です）

○ 定 員： 200名

○ 申 込 方 法：

電子メールまたは往復ハガキにて、お名前、年齢、所属（勤務先または学校名、学年）を明記し、また、往復ハガキの場合は返信ハガキに宛名（住所、郵便番号、氏名）を記入の上、申し込んでください。申込みは先着順とし、返信メールまたはハガキにて入場の通知をします。

なお、定員を超えた場合は、入場をお断りすることがあります。

* 個人情報、当公開講座以外の目的で使用することはありません。

○ 申 込 先 :

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学 宇治地区事務部研究協力課研究支援掛

電話 0774-38-3350

電子メール・アドレス kokai25@dpri.kyoto-u.ac.jp

○ 締 切 日 : 平成25年9月10日(火) 必着

○ 申込結果のご連絡: 平成25年9月13日(金)までに各申込者にご連絡いたします。もし、期日までに連絡が届かない場合は、上記申込先までお問い合わせください。

【プログラム】

10:00~10:05	開会の挨拶	所 長 大志万 直人
10:05~11:00	豪雨の発生メカニズムをひもとく 「豪雨の局地化と集中化のしくみ」	准教授 竹見 哲也
11:10~12:05	豪雨のゆくえと予測 「豪雨の予測はむつかしい?地球温暖化による影響は?」	教 授 中北 英一
12:05~13:20	昼休み	
13:20~14:15	山を動かす豪雨 「豪雨と崩壊: 山地の斜面災害を知る」	准教授 松四 雄騎
14:25~15:20	都市を襲った洪水・流砂災害 「2012年京都府南部豪雨災害で発生した水理現象と得られた教訓」	准教授 竹林 洋史
15:30~16:25	豪雨災害から何を教訓とし、どう備えるか 「宇治水害時の行政対応に学ぶ」	准教授 牧 紀男
16:35~17:00	総合討論	司会 教 授 松浦 純生
17:00~	閉会の挨拶	教 授 澤田 純男



本講座は土木学会CPDプログラムとして認定されています。

会場へのアクセス

場所: キャンパスプラザ京都

京都市下京区西洞院通塩小路下る

電話 (075)353-9111

経路ご案内

●JR・近鉄「京都」駅下車

烏丸出口から徒歩5分

●地下鉄「京都」駅下車

北側改札口から徒歩5分

●市バス「京都駅前」下車徒歩すぐ

